

時間をかけてでも専用CADで どれだけ打つか、全体的な効率化のカギ。 REAL4導入後、専用対汎用が9対1に。 時間短縮・効率化に貢献！

株式会社清水スチール

「ら、こうできるんじゃないか、と気付くことがあり、そういった声をユイザー会などの場で伝えていきます。ユイザーの声を吸収しながら、さらによいREAL4へ、というのが開発の考え方だと聞いています。システムを作る人、図面を書く人、鉄骨をつくる人。そのラインが繋がって、一緒にものつくりたいものができる」といいます。

原寸検査で、説得力を高め、図面の決定を早めたREAL4の3D!

■ライナーを活用する中で工場の流れや時間は変わっていきましたか？

■鳥田専務…変わりましたね。専用でどこまで打って汎用でどれだけ直すのか。施工図として出来上がるのがこれぐらいのタイミング、工場に出す資料はこれぐらいのタイミングでできあがる。そして検査資料は…と。専用で打てれば打てるほど、全体的な時間が短くなりまして。だから、効率化を進めるうえで、いかに専用CADでどれだけ打つかが勝負だ、という考え方に行くようになっていったんです。

■なるほど！REAL4導入後、専用と汎用の使用割合は変わりましたか？

■鳥田専務…ライナー2の時は専用対汎用が6〜7対4〜3だったのが、REAL4導入後は8〜9対2〜1ぐらいになりました。

■REAL4導入後、専用が9割ですか！

■鳥田専務…はい。ライナー2の時から専用の割合が5割以下では役に立たないので、それ以上を目指し、専

するようになりますよ。その中で、これはこう活用できるんじゃないかという引き出しが増えていったんです。

■具体的には、どう活用するようになったのですか？

■鳥田専務…管理資料として出せるもの、例えば出荷表とかです。材料注文についても、どんな資料なら先方にとつて分かりやすく、しかも、それをいかにこちらが手を加えずに出せるか。そのためには、どのチェックを外し、どうすれば出せるか。そういった管理資料の出し方も、使ううちに分かるようになっていったんです。加工ソフトウェアもライナーでいろいろ出せるけれど、うちの工場には、こういうものがいいか、と。工場にとつてパッと見て分かりやすく、間違いなく作れるものを、いかに出せるか。

■図面を書くだけでなく、最初から建方までデータを効率よく生かすこと、省力化できることを考えると、やはり専用を使った方がいい。使いこめば使いこむほど、専用CADのS/Fライナーでできる幅が広がっていったんです。

■REAL4も、これができるんだか

■S/Fシステムを初めて導入されたのが1996年。そして2012年2月にREAL4を導入。その導入理由を教えてくださいませんか？

■鳥田専務…S/Fライナー2がのずれバージョンアップされなくなるのなら、REAL4をなるべく早く導入しようと思ったんです。どの段階で導入しようか、というのは迷ったんですが。

■鳥田専務…秩父では、もっと早く導入した会社があり、情報を聞いて、うちもそろそろ、と決めました。

■他社CADと比較検討されましたか？

■鳥田専務…いいえ。他社のシステムは考えなかったですね。実はS/FシステムDOS版のころ、使っていた人が定年で辞められてから使わなくなり、ウインドウズ版を入れてからもまたしばらく使わずにいたんです。でも、専用CADがあるのに使わないのはもったいない。メリットがあるのか、ないのか。まずとにかくとことん使え、と。そして、やり始めたのが常務なんです。

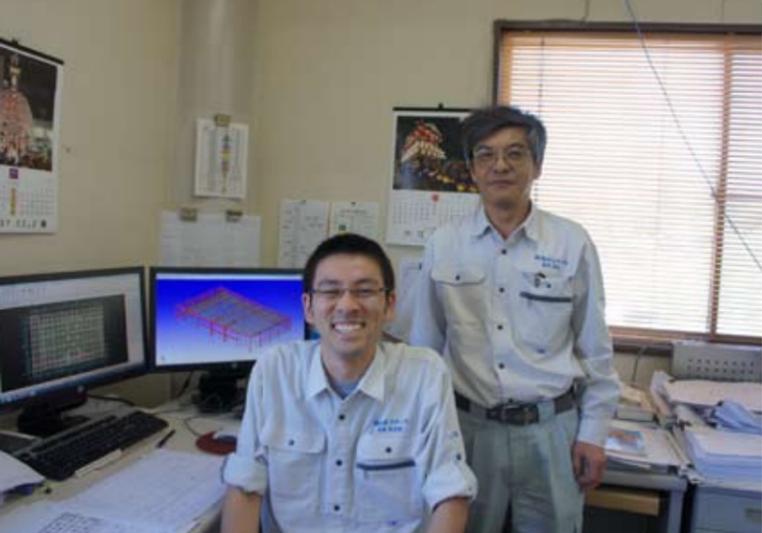
■使い始めた当時、どうでしたか？

■鳥田専務…うちは施工図からの仕事、原寸からの仕事の両方があり、施工図支給のものであっても、今はREAL4に入れ直しているんです。その方がデータから管理資料も出て、それが使えて、工場の流れが早くなるので。

■鳥田専務…そう。建方までの時間を逆算し、入力時間を考え、REAL4に入れた方がいいとすれば、そうしているんです。

■時間がかかっても、できるだけ専用で入れた方が全体的には効率化につながる、と。

■鳥田専務…はい。工期短縮が進む中、



島田佳史郎常務（手前） 新井部長（奥）

勝ち残るには、いかに図面を早く正確に仕上げ、材料を早く手配し、工場の流れをよくして、時間を減らせるか。図面がしっかりしていないと、工場の流れや不具合につながります。工場から図面の戻しが何度もあると間違いのものになるし、時間もロスします。戻しを極力なくす、しっかりとした図面を時間が多少かかっても作ることが大事だと考えているんです。

■専用と汎用。どこまで専用で入れるかの見極め、判断、チェックは大事なところですね？

■鳥田専務…そう、大事ですね。専用で入れた部分、汎用で入れた部分。拾えているものがたくさんあれば、先に注文し、できることから工場を進めていく。そして、ここはまだ保留の部分、といった情報を専務としっかり共有する。そうしたことを大事にしています。

■REAL4の3Dはいかがですか？

■鳥田専務…納まりを3Dで確認でき、便利ですね。原寸検査でも役立つと思います。そのために会議室にパソコンを常時置き、「こうなるので、納まりをこう変えました」と説明しながら3Dで見てもらうようにしたんです。すると3Dで説得力が高まり、内容を把握してもらって以前よりも早く図面を決定してもらえようになりました。原寸検査だけをとりもREAL4は図面の決定を早め、また、フィルム原寸を出すこともほとんどなくなり、コスト削減にもつながっていると思います。

■他にも便利な点がありますか？

■鳥田専務…ドットウエルの営業の頑張りの会社でREAL4を使っているとこ



左写真 中近笠鉾の様子。秩父神社の例大祭で12月2、3日に行われる日本三大曳山祭の1つ「秩父夜祭」。豪華な笠鉾2基と屋台4基が曳き回される。

ろが多く、そうした会社と連携して仕事をする時にデータのやりとりが早くできて便利ですね。難しい箇所への入れ方も「こうしたいらいいよ」と教えたり教えられたり、互いにレベルアップしています。

■データロジックのサポートセンターはいかがですか？

■鳥田専務…早く、簡単に、しかも原寸に利用できるようにするには、どう入れるのが一番いいだろう…というときに相談すると、メールやファックスで分かりやすく応えてくれるので助かります。そうしたサポートが信頼感につながっているの、他社CADに変えるつもりはないですね。

■今後についてはどうですか？

■鳥田専務…REAL4は今後への伸

びしろがあると感じていますし、応援しているからこそ使っています。

■BIMの対応を考えていくのと、求めているものにまず応えてほしいと思います。BIMよりも今です。

■REAL4の導入効果は出ているといえますか？

■鳥田専務…思っていたメリットは非常に出ています。導入してよかったです。REAL4にまだまだ伸びる可能性はあると思います。見積・積算との連動をもっと密に、また、仮設の個数のことなど、もっと良くしてほしい要望があります。さらにいいREAL4を目指してください。応援しています！



株式会社清水スチール

代表取締役社長 島田佳史郎
369-1503 埼玉県秩父市下吉田7767
TEL 0494-77-0500
ホームページ <http://www.d-mall.org/s.steel/>
Mグレード
REAL4:2012年2月導入、TYPE2